



第44回 ウメとサクラ、それにアーモンド？

「生物の分類って？」

生き物の分類は、大きなグループから界、綱、目、科、属、種という分類レベルで整理されるのが古典的方法です。でも最近では、遺伝子解析や分岐分類学の技術が盛んに用いられ、生物の分類はより詳細で複雑となり、「界～種」の分類段階だけでは、もう数が足りなくなっていました。「界～種」の分類法は、現在では名目的なものになりつつあります。

その代わり「古典的分類」であるからこそ、各分類階級の名称が日本語に訳されているのが普通で、異なる生き物同士の近縁さや、縁遠さについて考えることが出来る、わかりやすく、便利なモノサシとして使えるのです。身近な生き物について調べて見ると、意外な生き物同士が親戚筋だったりして、結構面白いのですよ。

今回は、その例をあげてみましょう。

「サクラの仲間たちとは？」

春に花見と言えば、当然サクラですよ。サクラの古典的分類は以下のようになります

サクラは種の数が多いので、属まで紹介することにします。

植物界 Plantae

被子植物門 Magnoliophyta

双子葉植物綱 Magnoliopsida

バラ亜綱 Rosidae

バラ目 Rosales

バラ科 Rosaceae

サクラ亜科 Amygdaloideae

サクラ属 Prunus

ここで驚かされるのは、サクラがバラと親戚筋だということです。バラは「バラ科バラ属」にまとめられていますから、「科」までは同じということですね。するとイヌとキツネほどに近縁ということになります。

「バラ科はくだもの国？」

実は「バラ科」の下位には、4つの亜科が含まれています。それを下に示し、ついでにそれぞれの亜科の、特に身近な属を選んで並べて見ると？

①バラ亜科

バラ属：バラ、ハマナス

キイチゴ属：クマイチゴ

イチゴ属：イチゴ

②シモツケ亜科

シモツケ属：ユキヤナギ

③ナシ亜科

ビワ属：ビワ

リンゴ属：リンゴ

ナシ属：ナシ

④サクラ亜科

サクラ属：サクラ、サクランボ、アンズ、ウメ、スモモ、モモ、アーモンド

これを見ると、私たちに身近なくだものが、バラ科にはたくさん含まれています。

ヒトは沢山の種類のくだものを栽培していますが、その一部は、地球にバラ科が誕生したおかげのようですね？

リンゴやナシがサクラに近いというのも驚きです。また、イチゴはサクラよりも更にバラに近いのです。これも意外。

「サクラの姉妹たち？」

さて、上記の「④サクラ亜科 サクラ属」を見てみると、まさにくだものだらけ。

サクラのうち、食用になる大きめの実をつける「ミザクラ」の仲間の実が、普通サクランボと言われているものです。サクラそのものも、葉っぱを塩漬けにして桜餅にしたり、花塩漬けの花を桜茶にして香りを楽しんだりしますよね。

アンズ、ウメ、スモモ、モモは、その生の実は言われて見れば互いにそっくり。

それにしてもビックリなのがアーモンド。

食用に加工されたアーモンドはタネのように見えますが、実はタネそのものではなく、タネの硬い殻を割った中にある「仁」と言う部分なのです。

梅干の種を割って、中の軟らかいタネのようなものを取り出し、酸っぱさと独特の風味を味わったことはありませんか？それが仁です。

アーモンドは、あれと同じものなんです。衝撃ですね。

これからは、アーモンドチョコレートを食べると、梅干を思い出して、口の中がすっぱくなっちゃうかも。

「スモモ漬けが食べたくて。」

え？今回なぜサクラやバラ科にこだわったのかって？

実は昨夜から、なぜか急に「駄菓子の甘酸っぱいスモモ漬け」が食べたくって、気になってしょうがなかったんです。

でも考えていくうちに、スモモの仲間のくだものも気になってきました。

今日、家に帰ったら、「桜餅、梅干、スモモ漬け、モモ缶、アーモンドチョコレート」でも取り揃えて、そこに梅酢ドリンクでも添えて、「サクラ属祭り」なんていかが？

甘くて、酸っぱくて、しょっぱくて、楽しいかも。

「大樹をさまよう」

生物学辞典を開くと、巻末に生物の分類一覧が載っているはずですよ。

あなたも、たまたま気になった生物に、他にどんな仲間がいるのかを探ってみませんか？

時には、生物の系統樹という、「地球に花開く巨樹の無数の枝」をたどって、「多様性の神秘」を味わってみてください。